

南北首脳会談について

本日、朝鮮戦争の軍事境界線のある板門店において、韓国文在寅大統領と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長による南北首脳会談が行われた。南北融和は今年になって動き出したものであるが、今回は韓国大統領が平壤を訪問したこれまで2回の首脳会談とは異なり、北朝鮮の首脳が韓国国内に足を踏み入れるものであり、1953年の朝鮮戦争停戦以来の大きな変化である。

第二次世界大戦後、分断国家になった韓国、北朝鮮両国が自らの意思で歩み寄り、朝鮮戦争を停戦から終戦に向けて歩みだすことを期待している。そして、朝鮮半島における完全な非核化が実現されることを強く期待する。

これまで北朝鮮は、幾度も核開発の中止を交渉の材料として、関係諸国の援助を引き出してきたが、核開発は中止されることはなく、裏切られ続けてきたことは肝に銘じておくべきである。従って国連による制裁は継続されるべきものと考えている。核兵器の完全破棄が明確なスケジュールを持って示されるかどうかについて大いに関心を持っている。

また北朝鮮に拉致された方々の帰還の実現に向けて動き出す機会に繋がることを期待している。日朝両政府による対話が始まらなければ拉致問題は解決しない。日本政府には南北融和という機会を有効に生かし、拉致問題解決に全力を尽くしていただきたい。

平成30年4月27日

日本維新の会
幹事長 馬場伸幸